

無垢羽目板（壁パネル）施工上の注意 （施工前に必ずお読みください）

- 天然無垢製品のため、大気中や壁下からの湿度の影響により、本来持っている湿気の吸排作用によって伸縮する性質を持っています。
- 羽目板は比較的厚みの薄い製品のため調湿の影響を受けやすく材の伸縮が起こりやすいです。伸縮を見越して施工していただく必要がありますが、難しい場合は実部が広く伸縮が目立ちにくい目透かし加工がおすすめです。
- 保管、施工およびメンテナンスにつきましては、下記注意事項をよくお読みください。なお、これらを守っていただけない場合、製品の補修・交換などには応じかねます。

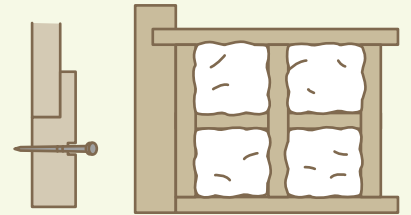
★免責事項…加工後の返品や交換には応じかねます。

1. 施工前に確認

- 開梱後に長時間放置されますと、施工現場の環境により、反り、曲がり、表面割れ等が発生するおそれがありますので、ご注意ください。
- 雨風が吹き込むことのないよう、サッシ部分等開口部の取り付け後に施工してください。
- 壁面の下地施工は、胴縁の上に9mm合板か12mm合板の捨て貼りをおすすめします。
- 胴縁は、巾木、見切りの高さに合わせて施工し、巾木、見切りなどは胴縁にしっかりとめてください。

2. 下地施工

壁下地と巾木の上に羽目板を挟むことができるよう、巾木用の下地胴縁をビスで取り付けます（ボードや合板に貼る場合は、この作業は必要ありません）。
巾木にボンドを塗って、巾木下地の上に貼り付け、隠し釘で固定します。（巾木の設置は、巾木の形状や施工手順によっては、羽目板貼り込み後になる場合があります）



3. 貼り込み

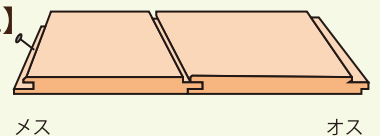
羽目板の裏に接着剤を塗り、メスザネにオスザネをはめ込むようにして貼り付けていきます。
その後、V目透かしの場合はメスザネの溝に、本ザネの場合はオスザネに隠し釘を打ち、羽目板を固定します。
羽目板同士をはめあわせる時は、傷がつかないように当て木をした上で金槌で叩き、しっかりとはめ込んでください。見切り、額縁等をかぶせて仕上がりです。

■接着剤の塗り方

- ①接着剤は適量を守りましょう。
- ②接着面の埃、汚れはしっかり取り除いてください。
- ③サネに接着剤がつかないように注意。
幅方向に固定された羽目板が一体になり、大きな隙間が生じることがあります。

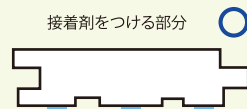
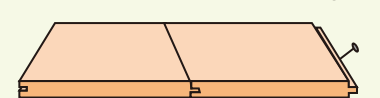
【V目透かし加工】

メスザネの溝に隠し釘を打ってください。

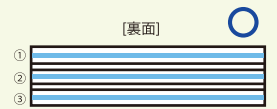


【本ザネ加工】

オスザネに隠し釘を打ってください。



※サネの真下ではなく、やや内側に接着剤を塗布します。



※羽目板の長さ方向に沿って筋状に接着剤を塗布します。

4. 養生

貼った羽目板に傷がつかないように、養生シートや養生ボードを用いて全面を覆ってください。この時、養生テープを羽目板に直接貼らないようにしてください。塗装がはがれたり、接着剤が付着することで、汚れや変色の原因となる場合があります。